

● 脱炭素社会への貢献

管内では、高いポテンシャルを活かした陸上風力発電が積極的に行われているほか、洋上風力発電に関しては、檜山沖が令和5年5月に再エネ海域利用法に基づく有望な区域に選定され、同年12月には第1回法定協議会が開催されたこともあり、洋上風力発電を域内の活性化につなげる気運も高まっています。

● 各町の積極的な取組

令和4年11月に奥尻町が環境省の指定する脱炭素先行地域に選定され、太陽光、地熱、水力、風力といった豊富な再生可能エネルギーを活用したゼロカーボンの取組を進めています。

また、管内7町すべてが2050年までにCO2を実質ゼロにすることをめざすゼロカーボンシティ宣言を表明するなど、各町の特性を生かした様々な取組が進められています。

● ひやまゼロカーボンネットワーク

管内各町や各町商工会、建設事業者など41※の団体・企業が参加する『ひやまゼロカーボンネットワーク』を組織し、官民の各主体が連携し、檜山地域が一丸となってゼロカーボンに取り組むための体制を整備しています。定期的なミーティングの開催やメールマガジンによる情報発信を通じて、地域におけるプロジェクトのサポートを行うこととしています。

※令和6年3月1日現在

● 電気自動車の普及・啓発

振興局では、電気自動車2台とソーラーカーポートを設置し、脱炭素化を進めています。

また、導入した電気自動車は閉庁日に住民や旅行者等に貸し出すことで地域の脱炭素にも貢献しています。

停電時には、庁舎への電源供給ができるほか、避難所等での非常用電源としても活用可能です。



上ノ国町の陸上風車



地熱バイナリー発電所（奥尻町）



電気自動車とソーラーカーポート

●再生可能エネルギー導入量(令和3年度)

(単位：万kW)

	太陽光	風力	中小水力	バイオマス	地熱	廃棄物	合計
檜山	0.89	13.48	0.45	0.00	0.03	0.00	14.8
全道	220.3	59.5	85.4	25.2	2.5	24.1	417.1

※出典：道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン産業課

令和5年の道内における交通事故死者数は、前年比16人増の131人でした。

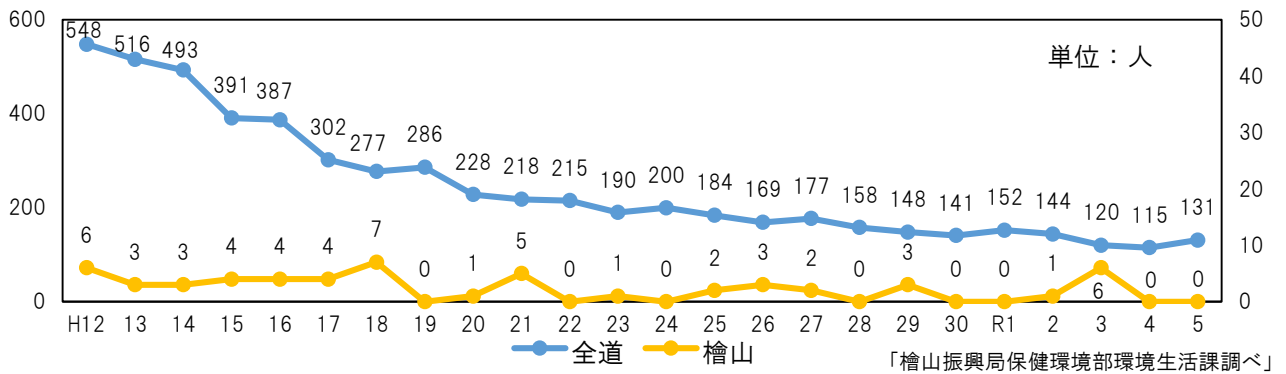
同年、檜山管内では11件の人身事故が発生し、交通事故死者数は前年に引き続き0人でした。
(過去最多は昭和45年の16人)

令和5年11月25日に上ノ国町が交通事故死ゼロ5,500日を達成しました。



「飲酒運転根絶の日」檜山地区決起大会の状況

●全道及び管内の交通事故死者数の推移（暦年）



●管内町・振興局別人身事故発生状況（暦年）

区分	事故発生件数		死者数		負傷者数	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5
江差町	3	1	0	0	5	1
上ノ国町	1	0	0	0	1	0
厚沢部町	3	4	0	0	4	4
乙部町	2	0	0	0	4	0
奥尻町	1	0	0	0	1	0
今金町	1	4	0	0	1	4
せたな町	4	2	0	0	4	2
檜山計	15	11	0	0	20	11
空知	415	442	11	12	497	543
石狩	5,082	5,323	38	42	5,775	6,154
後志	256	269	8	6	328	353
胆振	571	631	7	8	682	723
日高	54	49	2	3	68	56
渡島	552	549	6	12	651	656
上川	574	603	16	13	694	702
留萌	38	44	1	2	44	54
宗谷	42	44	2	1	47	57
オホーツク	206	244	6	10	248	297
十勝	404	560	7	10	446	630
釧路	212	271	10	8	238	319
根室	36	42	1	4	47	45
北海道	8,457	9,082	115	131	9,785	10,601
全国(概数)	300,839	307,911	2,610	2,678	356,601	365,027

●全国の交通事故死者数（年間ワースト順位）

暦年/順	1	2	3	4	5
R5 ('23)	大阪 148	愛知 145	東京 136	北海道 131	千葉 127
R4 ('22)	大阪 141	愛知 137	東京 132	千葉 124	兵庫 120
R3 ('21)	神奈川 142	大阪 140	東京 133	千葉 121	北海道 120
R2 ('20)	東京 155	愛知 154	北海道 144	神奈川 140	千葉 128
R元 ('19)	千葉 172	愛知 156	北海道 152	兵庫 138	東京 133
H30 ('18)	愛知 189	千葉 186	埼玉 175	神奈川 162	兵庫 152
H29 ('17)	愛知 200	埼玉 177	東京 164	兵庫 161	千葉 154
H28 ('16)	愛知 212	千葉 185	大阪 161	東京 159	北海道 158
H27 ('15)	愛知 213	大阪 196	千葉 180	神奈川 178	北海道 177
H26 ('14)	愛知 204	神奈川 185	千葉 182	兵庫 182	埼玉 173
H25 ('13)	愛知 219	千葉 201	兵庫 187	静岡 184	北海道 184

「檜山振興局保健環境部環境生活課調べ」

● 自然

管内では、「檜山道立自然公園」と「狩場茂津多道立自然公園」の2つの公園が道立自然公園に指定されており、雄大な自然の中で悠久の時の流れを感じることができます。

海岸地域では、強風と波浪によって形成された奇岩や岩石海岸地形が随所に見られます。また、道南の最高峰「狩場山」では様々な高山植物群落を楽しむことができます。

区分	檜山	狩場茂津多
指定年月日	昭和35年 (1960年) 4月20日	昭和47年 (1972年) 6月23日
指定面積	17,073 ha	22,647 ha
関係町	江差町、上ノ国町、 乙部町、奥尻町、 八雲町(熊石)(※)	せたな町 島牧村(※)

※八雲町は渡島総合振興局管内、島牧村は後志総合振興局管内



三本杉岩（狩場茂津多道立自然公園）



かもめ島（檜山道立自然公園）

● バードウォッチング

日本海に面した江差町の「かもめ島」は、季節を問わず、131種類の野鳥が観察できる隠れた探鳥地です。

振興局では、江差町内の道の駅などの観光拠点に、観察記録を画像で紹介するデジタルフォトフレームを貸し出し、野鳥の素晴らしさを発信しています。



デジタルフォトフレーム

● ヒグマ対策

管内はヒグマの生息域と人との距離が近いこともあり、近年は年間200件以上のヒグマの出没が報告されています。

また、農作物被害もあり、振興局では電気柵の貸出を行うなど被害防除を推進しています。

過去には、人身事故も発生しており、人とヒグマの軋轢を軽減することが課題となっています。



電気柵

● ヒグマ出没件数

年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
件数	211	216	221	265	249	244	253	216	311

※R5年度の数値は、令和5年12月末日の速報値

「檜山振興局保健環境部環境生活課調べ」

●災害と防災態勢

平成5年7月12日に発生した北海道南西沖地震では、奥尻町を中心に、死者・行方不明者219名を出すなど、檜山地域は甚大な被害を受けました。

近年では、平成30年9月6日に発生した胆振東部地震（檜山管内の最大震度4）や令和4年8月に檜山管内で大雨による被害が発生するなど、大規模災害が発生しています。

檜山振興局では、管内各町をはじめ函館地方気象台や陸上自衛隊第28連隊など防災機関と連携を取りながら、災害発生時の対応にあたり、管内各町の協力を得ながら、防災対策の拡充に取り組んでいます。

自衛隊災害派遣の状況

期間	場所	内容
R2.5.31	今金町	行方不明捜索
H25.8.18~19	厚沢部町	給水支援
H24.11.5~7	せたな町	行方不明捜索
H23.4.14	上ノ国町	行方不明捜索



自衛隊給水支援（厚沢部町）

各町の消防団の状況（単位：団、人）

町名	団名	分団数	団員数
江差町	江差町消防団	7	124 (〇)
上ノ国町	上ノ国町消防団	9	106 (〇)
厚沢部町	厚沢部町消防団	3	99 (〇)
乙部町	乙部町消防団	4	87 (〇)
奥尻町	奥尻町消防団	4	72 (〇)
今金町	今金町消防団	2	79 (〇)
せたな町		10	194 (8)
	せたな町北檜山消防団	4	86 (〇)
	せたな町大成消防団	4	54 (8)
	せたな町瀬棚消防団	2	54 (〇)
合計		39	761 (8)

R5.4.1現在

() 女性団員数で内数

「檜山振興局地域創生部地域政策課調べ」

●消防

消防の体制は、檜山広域行政組合消防本部と管内の7消防署と4出張所の消防士153名と地域住民による9消防団761名で、消火や救急救助などにあたり、日夜、地域住民の生命・財産を守っています。

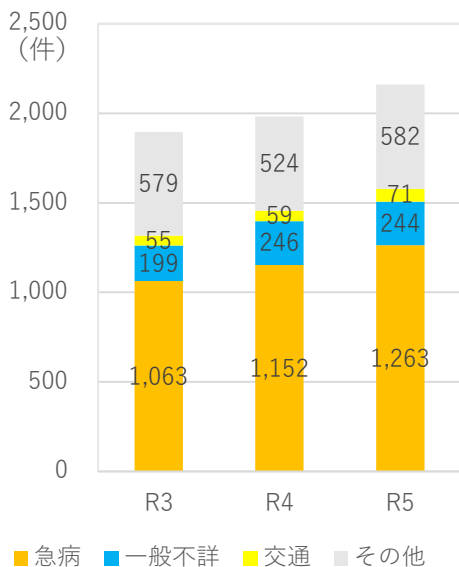
●自主防災組織

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで、地域住民が自発的に防災活動を行う町内会などの組織です。災害時には、地域における自主防災組織、ボランティア、企業などで助け合う「共助」がとても重要です。

数字で見る檜山

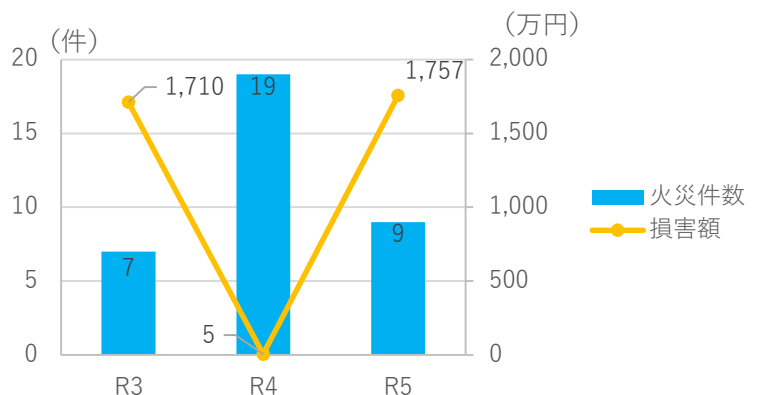
hiyama2024

●救急出動状況



「檜山振興局地域創生部地域政策課調べ」

●火災現況



●自主防災組織率

「檜山振興局地域創生部地域政策課調べ」

(%)

	全国	北海道	檜山
R3	84.4	64.0	61.3
R4	84.7	64.2	61.2
R5	85.4	75.6	62.5

「檜山振興局地域創生部地域政策課調べ」

管内の道路は、太平洋側の函館市に通じる国道227号線や、管内を南北に縦断する国道229号線など、他地域に通じる国道と道道・町道から構成されています。

都市部との移動時間の短縮が課題となっており、高規格幹線道路である函館・江差自動車道などの早期整備が望まれています。

陸路における公共交通は、平成26年5月のJR江差線の廃線に伴い、路線バスや予約バス(デマンドバス)、タクシーで維持されています。

奥尻島は、江差港・瀬棚港とフェリー航路(平成31年度から瀬棚―奥尻航路は休止中)で、函館空港・丘珠空港と航空路で結ばれています。

港湾は、地方港湾として江差港、瀬棚港、奥尻港の3港があり、フェリーの発着、地域産品や生活物資などの移出入の拠点として重要な役割を担っています。



「道道江差木古内線」(上ノ国町)



「路線バス」(函館バス)



「奥尻空港」(奥尻町)



「予約バス」(せたな⇄八雲)



「フェリー」(奥尻港⇄江差港)

●道路の整備状況（令和4年4月1日現在）

	路線数	実延長	改良率	舗装率
一般国道	5	201.6km	100.0%	100.0%
道道	30	408.5km	89.4%	90.5%
市町村道	1,644	1,474.5km	61.4%	53.9%
合計	1,679	2,084.6km	70.6%	65.5%

「道路現況調査」北海道建設部建設政策局維持管理防災課

●国道等の状況



●主な公共交通の状況（令和6年1月末現在）

○航空機

- 奥尻⇄函館（1日1往復 所要時間30分）金・日曜運休
- 奥尻⇄丘珠（1日1往復 所要時間50分）金・日曜運航
※祝日は、運航区間が変更される場合あり

○フェリー

- 奥尻⇄江差（1日1往復 所要時間2時間20分）
※ゴールデンウィーク・夏季は1日2往復

○路線バス

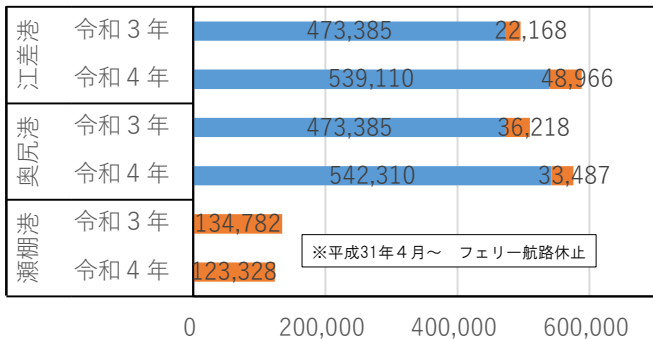
- 函館江差線〔江差⇄厚沢部⇄函館〕
- 瀬棚線〔せたな(瀬棚区)⇄今金⇄長万部〕
- 檜山海岸線〔江差⇄乙部⇄八雲(熊石)〕
- 江差木古内線〔江差⇄上ノ国⇄木古内〕
- 小砂子線〔江差⇄上ノ国⇄松前(原口)〕 ほか

○予約バス

- 檜山海岸線〔せたな(大成区)⇄八雲(熊石)〕 ほか

●港湾別取扱貨物量

■フェリー ■一般貨物 (トン)



「港湾統計」北海道総合政策部航空港湾局航空課

●奥尻⇄函館間 航空路線旅客数

	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
奥尻⇄函館	9,025	11,191	7,435	7,801	8,695
奥尻⇄丘珠	※令和3年7月～ 運航開始			1,676	3,791

「航空輸送統計」国土交通省

●フェリー乗降人員と車両利用台数（令和5年）

※()内は、対前年比増減

区分	人員(人)		貨物(台)			
	乗船	バス	トラック	乗用車	計	
江差港	23,565(+1,873)	58(+23)	4,237(▲81)	3,333(▲189)	7,628(▲247)	
奥尻港	23,753(+1,749)	56(+21)	4,199(▲92)	3,308(▲166)	7,563(▲237)	
計	47,318(+3,622)	114(+44)	8,436(▲173)	6,641(▲355)	15,191(▲484)	

「ハートランドフェリー(株)調べ」